
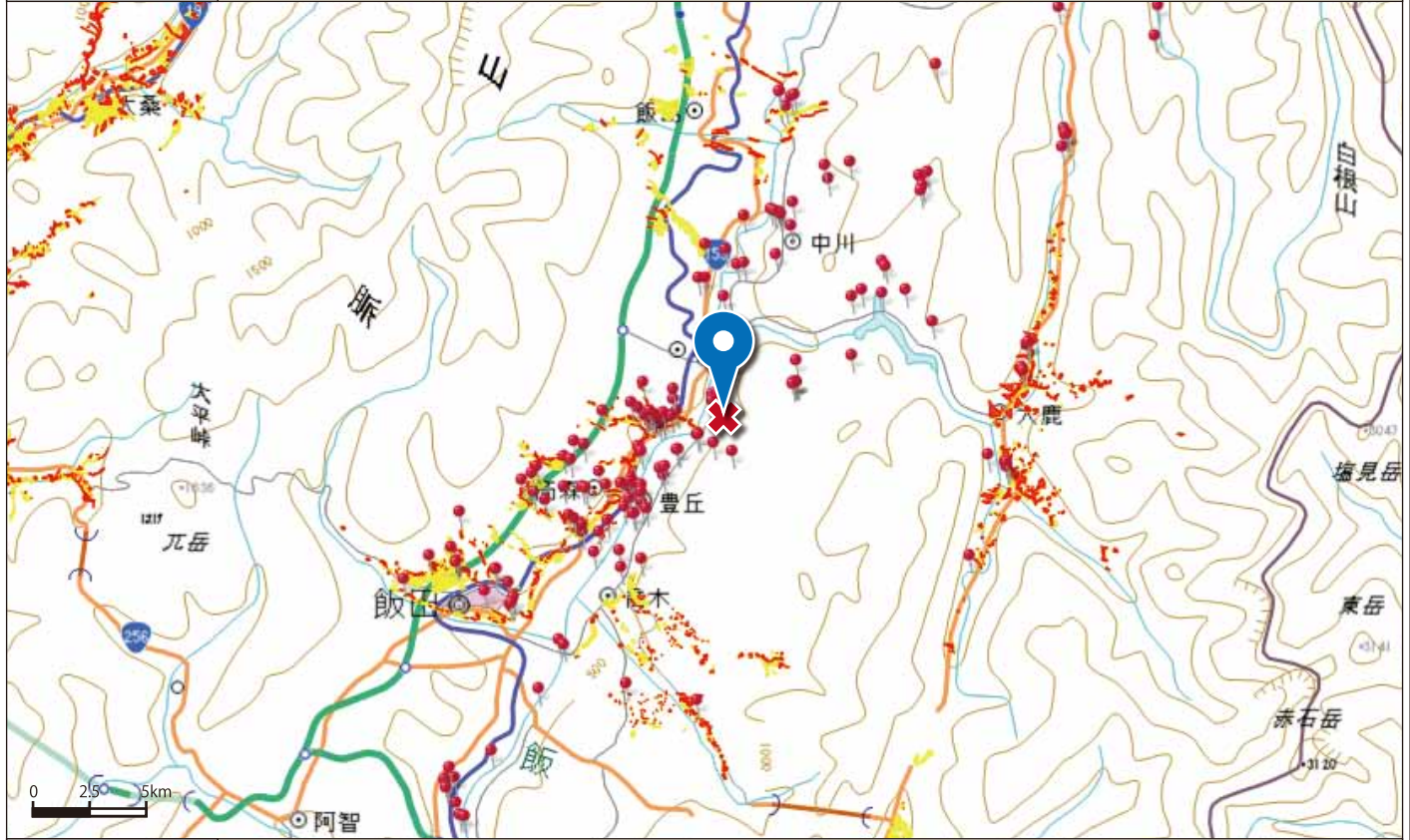


No.	16-2-2	場所	豊丘村河野	次世代への継承キーワード 地域コミュニティ / 避難行動 / 避難路確保	
名称	土砂と流木でうまった河野地区の民家			河川	間沢川
災害現象	家屋の被災			支流	
補足事項					
概要	<p>本来は梅雨の盛りのはずだが、田植えどころか水田の代かきもできないほど、春先からの少雨で水枯れの状態が続いた1961年（昭和36年）6月。ところが、23日夜から降り出した雨は「お湿り」どころか徐々に勢いを増し、下伊那郡豊丘村でも雨水を吸い込んだ山肌の土砂が部分的に大きな被害をもたらした。</p> <p>中でも、県道伊那生田飯田線から4キロほど東側の山あいにあった河野地区の二丁集落では、27日午後の山崩れをきっかけに電灯が消え、村からの情報も途絶えた。土砂交じりで濁流と化した間沢川は、一晩の間に農地を根こそぎ飲み込み、川べりの幹線道路を全てえぐり取ってしまった。</p> <p>●体験談：〇〇</p> <p>間沢川の橋の下へ流木や、土砂がつまり本流が県道を伝わって宮沢組の事務所や枝の人家を襲ったのである。この時に備えて必死に組んだ十三基の聖牛はあっと言う間に押し流されてしまった。消防団や部落の人達が応援してくれているので、宮沢組や枝の女衆は事務所で炊き出しの準備に大わらわであった。ご飯が炊けて、皆で握り飯を一コ握って二コ目を握ろうとした時に、ドーンと間沢川の本流がここへ押し寄せたのである。「危い逃げろ」と叫んで胸までつかる濁流を泳ぐようにして対岸へ渡ろうとしたが水勢が強くて渡れない。やっとの思いで宮沢組の前庭に止めてあったトラックのボデーにかき上がったのが、〇〇氏外約十人程であった。県道は濁流の海である。</p> <p>対岸の△△君の桑畑に▼▼君がかけつけたので〇〇さんがトラックに備えてあったロープを投げて県道の上の畑の電柱に結び、これを伝わって泥水と流木をかき分けて対岸の土手に登り、全員無事救出されてのである。</p> <p>（「豊丘村 三六災害」より）</p>				
記録	 <p>土砂と流木で埋め尽くされた河野地区</p>				
出典	「豊丘村 三六災害」p.101				
備考					

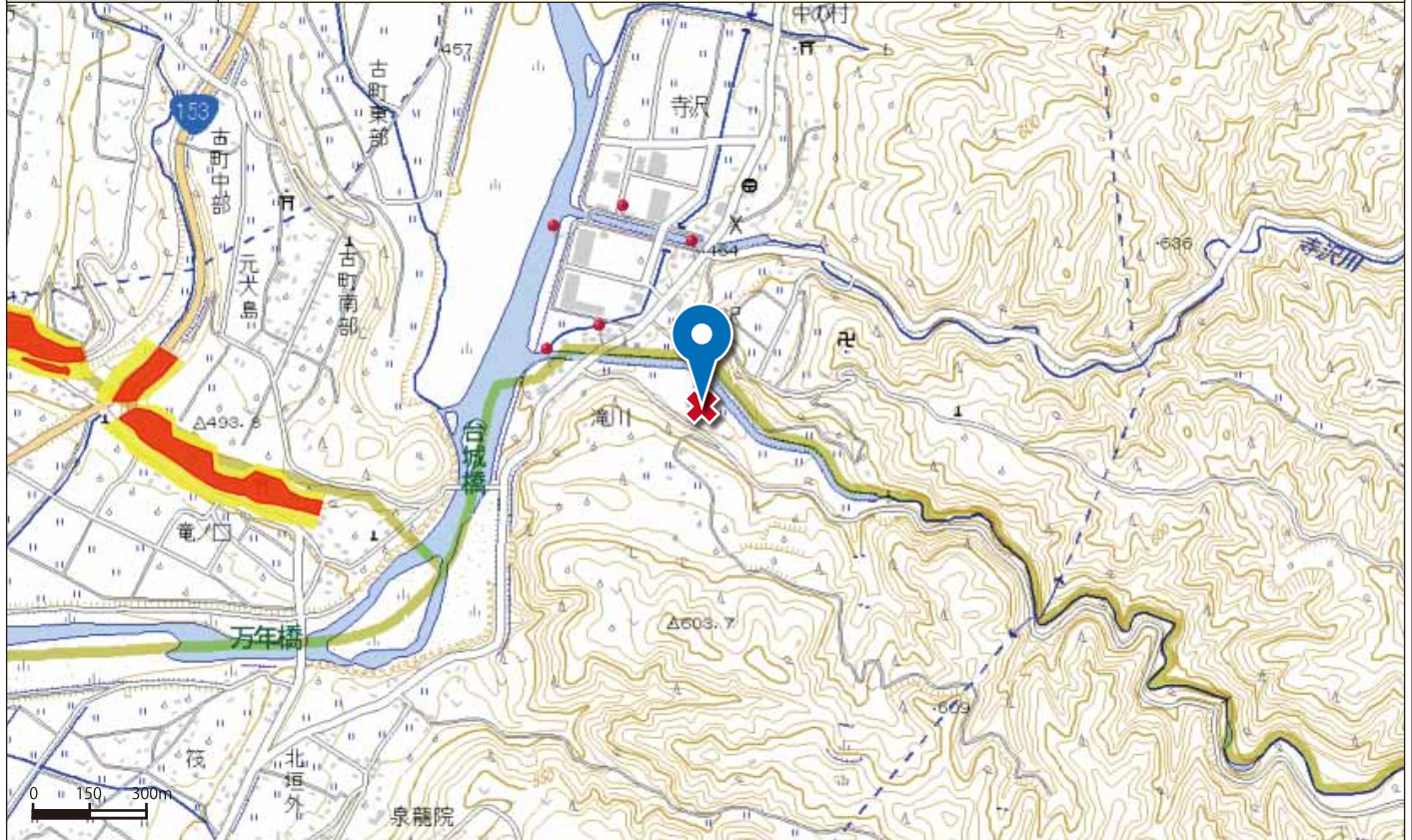
No.	16-2-2	場所	豊丘村河野	緯度	35.577178
-----	--------	----	-------	----	-----------

名称	土砂と流木でうまった河野地区の民家			経度	137.924316
----	-------------------	--	--	----	------------

地図	広域図
----	-----



地図	詳細図
----	-----



備考	上記地図に表示されている、黄色の区域は「土砂災害警戒区域」（通称：イエローゾーン）といい、土砂災害のおそれがある区域を指します。また、赤色の区域は、「土砂災害特別警戒区域」（通称：レッドゾーン）といい、土砂災害警戒区域のうち、建築物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域を指します。
----	---